

『原三溪翁伝』第3篇第2章を読み進めました

3月の定例研究会では、『原三溪翁伝』の輪読を進めました。

◆輪読

発表者：山崎宣晴

範囲：pp.731～760

第3篇 性格と趣味

第2章 趣味

第11節 食通

第12節 煙霞癖えんかへき



食通と煙霞癖

原三溪翁の煙霞癖は、常人の物見遊山とは全く異なり、義士義民に実感し、又義憤に駆られてそれらの遺跡を訪れた。又翁は皇室尊敬の念厚く、海上遥かに離れた一孤島（隠岐島旅行）に出向くことは稀であった。この儒教的、国粹主義的な性格、趣味は、翁の幼少頃からのもので、終生変わることはなかった。

三溪翁は名うての食通で、味覚が発達していた。しかし凡そ日本主義の人で、あらゆる趣味はそこから来ており、日本料理は一廉の通であった。そして翁の茶会の懐石料理は、他者の型を破って単純に品数より量本位に徹し、来客に満腹主義を勧めていた。純日本料理でも特に川魚で、“鮎喰い”の郷土料理の川の珍味を満喫していたと云う。

（山崎）



◆総会

研究会の後半に「原三溪市民研究会平成24（2012）年度総会」が開催され、平成23年度事業計画及び会計報告、平成24年度事業計画及び予算案、平成24年度運営委員改選などが承認されました。